

行政事業レビューシート (厚生労働省)

予算事業名	浄水処理技術評価研究事業	事業開始年度	平成18年度	作成責任者		
担当部局庁	国立保健医療科学院	担当課室	総務部会計課	課長 矢作 弘		
会計区分	一般会計	上位政策	水道ビジョン(厚生労働省健康局、平成16年6月(平成20年7月改訂))			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	水道法第2条(水道事業体等への技術的支援等) 水道施設の技術的基準を定める省令第5条 (浄水施設に関する要件の確保)	関係する計画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	逐次改正される水質基準や原水水質の悪化等に対応するための技術的課題についての試験・評価、高度な技術開発および既存の浄水処理技術の性能向上を図り、国の水道行政に資する浄水処理技術評価に関する基礎資料として整理するとともに、これらの成果を研修、実習を通じて全国の水道事業体等の技術的、人的支援を行う。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	当院で保有する浄水処理実験プラントおよび関連の実験装置等を活用し、水道原水の変動や汚染に対応する処理技術の評価及び、浄水施設の運転管理手法の最適化に関する研究、高度浄水処理の実用化及び既存の浄水処理技術の性能向上に関する研究を行う。これらの成果を原水水質に対応する処理システムとしてその性能、運転管理方法等について整理する。さらにこれらの成果を水道事業体技術職員等を対象とした教育訓練及び研修を通じて、全国の水道関係技術者等の資質向上および技術的、人的支援を図る。					
実施状況	今後、導入が期待される促進酸化処理について、処理水中の溶存オゾン濃度から過酸化水素注入率をフィードバック制御するという新たな手法を提案し、その効果を浄水処理実験プラントで実証したほか、水質管理目標として数値が強化されたアルミニウムや、気候変動の影響による原水水質の変動等に対応した処理技術、対応策の検討を浄水処理実験プラント等を活用して実験的検討を行うなどの成果を上げている。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	12	10	10	8	7
	執行額	12	10	10		
	執行率	100%	100%	100%		
	総事業費(執行ベース)	12	10	10		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	実験及び調査研究に係わる文献収集、実験用の試薬、ガラス器具等消耗品、水質測定機器のガス、容器等消耗品、実験プラント、実験装置に関する備品、維持管理費、修繕費等に支出している。				
	見直しの余地	今後も、他の研究、事業との重複がないように留意し、効率的運用を図る。				
予算チームの監視・効率化	一部改善(事業を一部見直し、概算要求に反映)  執行の観点からは概ね妥当であるが、真に必要な研究費の精査を行い、効率的な執行に努めること。					
補記						

国立保健医療科学院  
10百万円

〔 浄水処理技術評価研究事業 〕



【随意契

A. 民間企業(3件)  
3百万円

〔 浄水プラント補修等 〕

うち事務費  
7百万円

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて補足する)  
(単位:百万円)

A.前澤工業(株)			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	浄水プラント補修点検	1.7			
雑役務費	オーバーフロー配管工事	0.3			
計		2.0	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の  
 金額が支出されている者につ  
 いて記載する。使途と費目の  
 双方で実情が分かるように  
 記載)